



左上：焼損後のモーガン邸玄関の現状。左下：焼損前の玄関。右：焼損したモーガン邸内部。（写真・米山淳一）

旧モーガン邸再建活用事業スタート

令和3年7月吉日
公益社団法人横浜歴史資産調査会
会長 宮村 忠

旧モーガン邸（藤沢市大鋸）は、アメリカ人建築家J.H.モーガンの自邸です。約2000坪の敷地に自邸、隠居屋、車庫、温室、ポンプ小屋等がありましたが、過去の二度に渡る不審火で自邸、隠居屋が焼損してしまいました。

焼損後、保存活動を行っているNPO法人旧モーガン邸を守る会と、所有者である藤沢市、公益社団法人日本ナショナルトラスト（以下、JNT）の3者で再建に向けた方向性を探りましたが、JNTが再建を断念したこともあり、計画は進みませんでした。

このため、NPO法人旧モーガン邸を守る会の勧めもあり、JNTは所有する土地（自邸の大部分他）約600坪と火災保険金の一部を公益社団法人横浜歴史資産調査会に移譲する方向を示しました。これを受けて当公益社団では、理事会、総会で審議し、旧モーガン邸を譲り受け、再建を行うことを機関決定いたしました。そしてこの度、令和3年3月31日付で、JNTから当公益社団に、関係の土地と保険金の一部が正式に移譲されました。

再建や将来に亘る保存、活用、管理計画は、当公益社団の理事や専門家等からなる調査チームがすでに作成済みです。旧モーガン邸は、横浜市境から数百mに位置し、国道一号線を介して旧俣野別邸（焼失後に再建・横浜市所有）と至近の立地にあります。合わせて遊行寺、旧東海道藤沢宿の歴史的建造物や町並み等の文化資源と連携した活用を目指します。そのために旧モーガン邸を地域の文化交流拠点である「ヘリテ

イジセンター」的機能を発揮する施設として再建いたします。広大な緑の庭と洋風建築が醸し出す邸宅文化を、多くの皆様が体感できる名所となることを願い、再建活用事業に取り組みます。

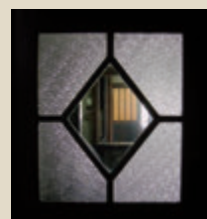
しかしながら再建には多額の建設整備費が必要であり、再建に向けた苦難の道を歩むことを覚悟いたしております。

今後、NPO法人旧モーガン邸を守る会、藤沢市と力を合わせて再建活用事業を推進して参りますので、ぜひとも皆様の格別のご高配を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

◎寄付のお願い◎

旧モーガン邸再建のために、みなさまに寄付をお願いしています。一口から何口でもありがたくお受けいたします。

個人＝5,000円（一口）
団体・企業等＝100,000円（一口）



ご寄付頂いたみなさまのお名前は、再建した建物の室内に掲示させていただきます。

*当公益社団への寄付は、税法上の優遇措置が適用され、所得税（個人の場合）、法人税（法人の場合）の控除が受けられます。詳しくは事務局からご案内します。

●振込先：ゆうちょ銀行 ●口座番号：00270-4-124271

●加入者名：公益社団法人 横浜歴史資産調査会

※恐縮ですが、旧モーガン邸と明記してください。

今年の仕事 公益社団法人横浜歴史資産調査会 令和3年度事業計画

(1) 調査事業

〈横浜市都市整備局からの受託事業〉

① 歴史的建造物保全・活用計画関連調査

歴史的建造物保全活用計画関連調査等を実施します。所有者へのヒアリング、歴史的建造物に関する文献調査、写真撮影、現地確認、地図へプロットする方法により実施し、調査によって得られた知見を当公益社団の公益目的事業である「歴史を生かしたまちづくり」の内容検討に活用し、具体的な歴史的建造物の保全・活用における方針の策定や横浜市登録、認定歴史的建造物に向けた課題を整理し、所見の作成等を行います。

〈自主事業〉

① 建築家J・H・モーガン自邸の再建に係る調査（藤沢市）

火災により焼失した建築家J・H・モーガン自邸の再建を目的に、平成28年度に当公益社団に設置した「旧モーガン邸復元再生委員会」を中心として、NPO法人旧モーガン邸を守る会、藤沢市等と連携し、「復元再生調査報告書」（平成29年度実施）に基づいて再建に向けた調査等を継続いたします。

② 山手地区西洋館群等の保存対策調査（横浜市）

横浜山手地区の西洋館群を核とした歴史的風致は、横浜を代表する貴重な歴史的資産です。横浜市は7棟の西洋館を所有し、保存活用を行っていますが、個人所有の西洋館に関しては、十分な保存対策が取られていないのが現状です。横浜市は昭和59年度、60年度に文化庁の補助を受けて伝統的建造物群保存対策調査を行い、平成23年度～25年度には当公益社団が文化庁の補助を受けて伝統的建造物群の見直し調査を行っています。将来にわたり山手西洋館等の保存、活用を目指し、市民、行政関係部署、専門家、当公益社団等が力を合わせて取り組む体制づくりを行い、保存活用の枠組みを設けるための調査を行います。

歴史を生かしたまちづくり要綱、伝統的建造物群保存制度、歴史的風致維持向上事業等の効力の検証も行い、さらに建物の修理や修景、相続税など所有者を取り巻く多くの問題や課題を整理し、対策の検討を行います。これに合わせて調査委員会を設けます。

*参考：開港都市の函館市（元町、末広町）、神戸市（北野山本通り）、長崎市（東山手、南山手）は、既に重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。

③ 西教寺の文化財指定や認定に向けた調査（横浜市）

西教寺本堂は、昭和6年の鉄筋コンクリート造で市内では稀な建物です。「歴史を生かしたまちづくり相談室」の案件として取り上げ、現況調査や文献調査等を行い対応してきましたが、今後、市指定文化財や横浜市認定歴史的建造物への可能性に向けた調査を推進いたします。

④ 旧倉石忠雄家住宅の現況調査（長野県千曲市稲荷山・国重要伝統的建造物群保存地区）

稲荷山地区は、信州の絹文化の交流拠点として、また横浜と絹を介した交易で繁栄しました。現在でも約650mに及ぶ歴史的町並みには、反物や生糸関連の土蔵造り商家が軒を連ね、当時の賑



山手地区のまちなみ



旧湘南電鉄瀬戸変電所内部

わいを偲ぶことができます。「旧倉石忠雄家住宅」は、生糸商として知られ労働大臣や農林大臣を歴任された倉石忠雄氏の生家で伝統的建造物に指定されています。地元の千曲市や稲荷山の町並みを守る会等と力を合わせて国指定重要文化財を目指し、合わせて復元や活用に向けた建物や文献の調査を継続いたします。

⑤ 細野燕台家茶室の現況調査（鎌倉市）

「歴史を生かしたまちづくり相談室」案件の対象です。北大路魯山人の古陶磁器や茶道の師匠である細野燕台氏は、大正期より北鎌倉に居を構え、鎌倉茶の湯文化を推進しました。現在も細野家住宅に残る二つの茶室を拠点に、燕台と魯山人が築いた茶の湯文化は遺産となり、鎌倉の歴史的景観に潤いを与えています。鎌倉市と協働で細野家の意向を尊重し、同茶室の保存、活用に向けた調査を継続いたします。

(2) 保護事業

〈自主事業〉

① 「野毛都橋商店街ビル」の保全・管理

当公益社団の保護資産第1号である「野毛都橋商店街ビル」の将来に亘る円滑な保全・管理を推進します。横浜野毛商業協同組合と保全・管理に関し、詳細な取り決めを作成いたします。

② 「旧湘南電鉄瀬戸変電所」の保存・活用

湘南電気鉄道創業時（昭和5年）の歴史的建造物を京急電鉄（株）から建物の寄贈を受けて保存、活用するために行った耐震・地盤調査（平成29年度・平成30年度）の結果に基づき、京急電鉄、横浜市等と協議を重ねます。建物の耐震補強や修理計画、さらに保存、活用、管理に関する実践的な仕組みを確立します。令和元年度に当公益社団が設置した「旧湘南電鉄瀬戸変電所保存活用委員会」を引き続き開催いたします。

③ 建築家J.H.モーガン自邸の再建・保存・活用事業推進

火災で焼失したJ.H.モーガン自邸の、復元再生調査報告書（平成29年度実施）に基づく再建事業を推進します。公益財団法人日本ナショナルトラストから焼失した建物と敷地約2,000坪の内の約3分の1の土地の譲渡を受けた後、再建と活用に向けた資金確保のための募金活動を行います。再建委員会を設け具体的な再建計画や保存、管理、活用計画を作成します。

長年、管理、公開等を行っているNPO法人旧モーガン邸を守る会と敷地の3分の2を所有する藤沢市との連携を強化し、力を合わせて事業を推進します。

(3) 普及啓発事業

〈横浜市都市整備局からの受託事業〉

① 『歴史を生かしたまちづくり横浜新聞』第37号を発行

② ふるさと納税「歴史的景観保全活用事業」のPRポストカードを製作

③ 都市デザイン導入50年記念関連イベント等の開催

〈公益財団法人横浜市緑の協会からの受託事業〉

- ① 俣野別郎、旧伊藤博文金沢別邸等の職員向け研修セミナー実施
- ② 俣野別郎、山手西洋館等の市民向けの歴史講座やコンサート等を開催

〈自主事業〉

① ヨコハマヘリテイジセミナーの開催

2022年の新橋—横浜間鉄道開業150周年に向けて、「近代化遺産としての鉄道遺産を生かしたまちづくり」と題したセミナーを開催します。

② コンサート in ヘリテイジ「ピアノが案内する横浜の歴史とまち Vol.9」の開催

「横浜山手芸術祭」の一環としてピアノコンサートを山手西洋館で開催します。

③ かながわヘリテージマネージャー協会との協働と支援

当公益社団の調査、保護、普及事業等のサポートに、かながわヘリテージマネージャーの資格を持つ方々の参加を促進します。

④ 鉄道開業150周年記念事業委員会の開催

2022年10月の新橋—横浜間鉄道開業150周年に向けて、日本鉄道保存協会と協働で記念事業を行うことを目的に、令和2年度に設置した委員会を引き続き開催します。記念事業内容は横浜市開港資料館等の関係団体との展示やイベント等の開催、記念誌の発行等を検討します。

⑤ 「シルクロード・ネットワーク・神戸市フォーラム2021」の開催支援

シルクロード・ネットワーク協議会の代表幹事団体として、シルク産業で横浜に繁栄をもたらした関東甲信越、東北各地等の市町村と連携し、絹文化の啓発、保全、活用をテーマに、NPO法人街・建築・文化再生集団(RAC)等と連携して、「シルクロード・ネットワーク・神戸市フォーラム2021」(講演会、シンポジウム、見学会等)の支援をします。

*令和2年度(2020年度)開催予定を延期したもの

⑥ 「日本鉄道保存協会・栗原市大会」の開催支援

日本鉄道保存協会の代表幹事団体として、近代化遺産である歴史的車両、施設、構造物を保存している自治体、鉄道事業者、NPO等の団体等と連携して宮城県栗原市で行う同協会の総会、講演会、シンポジウム、見学会等の開催を支援します。

*令和2年度(2020年度)開催予定を延期したもの

(4) 会員事業

〈自主事業〉

- ① ヨコハマヘリテイジ・サポートクラブ会員の募集と会員ボランティアによるサークル活動等の推進
- ② 会報誌『ヨコハマヘリテイジスタイル』を年4回発行
- ③ ホームページの充実

(5) 「歴史を生かしたまちづくり相談室」の運営

横浜市内や神奈川県内等には多くの歴史的建造物等の歴史的



生糸検査所がおかれていた神戸の「KAITO」



発掘された高輪築堤 (撮影/大島登志彦)

資産が数多く存在し、取り壊される運命にある対象も年々増えています。これら歴史的建造物の老朽化、居住性の低下に関わる修理工費、固定資産税や相続税等などが障害となり、保全・活用を行いたくてもできずに悩んでいる方が多くおられます。様々な相談に対応し、調査、保全の提案、修理、住まい手紹介、取得等の有効な手当を行うため平成26年に「歴史を生かしたまちづくり相談室」を開設しました。「歴史を生かしたまちづくり」に大切な、歴史・文化資源を確保することを目的として相談室の運営に力を注ぎます。

(6) 公益社団法人横浜歴史資産調査会 設立10周年記念事業の開催

〈自主事業〉

2009年(平成21)6月2日に、横浜市都市デザイン室内の横浜市歴史的資産調査会から神奈川県認定の一般社団法人横浜歴史資産調査会(愛称:ヨコハマヘリテイジ)として「歴史を生かしたまちづくり」を推進するために新たな一歩を踏み出しました。さらに2013年(平成25)4月1日には内閣府認定の公益社団法人格を取得し、全国を対象とした公益法人として歴史的資産の調査、保存、活用、管理等の事業を推進してきました。法人として活動を開始してから12年目を迎え、「歴史を生かしたまちづくり」を将来に亘り積極的に推進するため、設立10周年記念事業を行います。

※当該事業は、令和元年度事業として令和2年3月6日に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大予防により延期となりました。令和3年11月を目途に改めて開催します。

■2021年度 役員紹介

代表理事(会長)／宮村 忠 関東学院大学名誉教授(土木工学)
理事(副会長)／吉田綱市 横浜国立大学名誉教授(近代建築)
理事(常務理事)／米山淳一 元・財団法人日本ナショナルトラスト事務局長(歴史的環境保全)

理事／大野 敏 横浜国立大学大学院教授(日本建築史)
理事／古賀 学 松蔭大学教授(観光計画)
理事／鈴木伸治 横浜市立大学教授(都市デザイン)
理事／関 和明 関東学院大学名誉教授(建築史)
理事／堀 勇良 建築史家(建築史・元文化庁主任文化財調査官)
理事／水沼淑子 関東学院大学名誉教授(建築史)
理事☆新任／森 まゆみ 作家
監事☆新任／内山哲久 元・財団法人環境文化研究所調査役(歴史的環境保全)

● 新任理事紹介

森 まゆみ氏

1954年生まれ。早稲田大学政治経済学部卒業
1984年、地域雑誌「谷中・根津・千駄木」を創刊。
1988年『鷗外の坂』で芸術選奨文部大臣新人賞、
2003年『「即興詩人」のイタリヤ』でJTB紀行文学大賞、
2014年『「青鞥」の冒険』で紫式部文学賞を受賞。
著書多数「谷根千(記憶の蔵)」を主宰。



2022年10月14日 新橋－横浜鉄道開業150周年

連載 第2回

元交通協力会理事長 菅 建彦



鉄道開業150周年あたって 思うことをお話ください

1972(昭和47)年10月14日、
国鉄本社新館大会議室で昭和
天皇臨席のもとに鉄道創業百

年の記念式典が行われました。京都に梅小路蒸気機関車館が開設され、国鉄が刊行した『日本国有鉄道百年史』のほか民間からも多数の図書が出版され、盛り上がりましたね。

1980(昭和55)年に私はロンドンに赴任し、街頭で『ROCKET150』というポスターを目にしました。世界最初の本格的鉄道リパブル・マンチェスター鉄道の開業150年を祝って、同鉄道の中間点レインヒルに英国じゅうの保存機関車を集めてパレードをするイベントの告知でした。赴任して間もない頃でしたが、買ったばかりの車を運転して家族も一緒に出かけました。この時、創業時の機関車ロケット号の動く実物大レプリカや1838年製の動態保存機関車ライオン号をはじめ、何十両もの保存機関車が大勢の観客に見守られて国鉄の営業線上を走っているのを見て、英国の鉄道保存活動の奥深さに感銘しました。

英国に半世紀近く遅れて出発した日本の鉄道も、来年ついに創業150周年を迎えますが、コロナ禍もあってか百年の時のような盛り上がりには欠けるのが残念ですね。

150周年記念事業についてお伺いします。

交通協力会では、国土交通省、鉄道運輸機構、鉄道総研、JR各社、日本民営鉄道協会、関連産業の多数の企業などの協力をいただいて『鉄道百五十年史』の編纂を進めています。『日本国有鉄道百年史』は文字通り国鉄の「社史」でしたが、『鉄道百五十年史』は民鉄や公営鉄道も包含した「総合産業史」を目指し、またグローバルな視点から日本の鉄道の発展を俯瞰しようと心がけています。

横浜歴史資産調査会と日本鉄道保存協会が立ち上げた「150周年記念事業委員会」の委員もさせていただきますが、英国の事例なども参考に日本の鉄道の功績を後世に伝え、150周年を祝える事業に協力したいと思います。

日本近代建築史の聖典

吉田鋼市

(横浜国立大学名誉教授・副会長)

「諸君、拝跪し給え、神の業だ」。そうしか言いようがなく、人間業とはとうてい考えられない。影響力の大きかった人はもちろん、歴史の一点において重要な働きをしたほとんど忘れ去られた人まで含めて1万3000人の建築関係者の履歴と業績と、さらにその人を評した諸文献までことごとく網羅されている。小さいが貴い人々の営みがすべてここに集められ顕彰されており、日本近代の建築関係者の墓碑群でもある。つまりは近代日本建築史の聖典(バイブル)であり書紀である。教わることおびただしが、たまに生没年などに「？」マークがついていると、これもやはり人の業かと逆に心動かされる。今後の学界の仕事はこの「？」マークを埋めることになっていくのだろう。



『日本近代建築人名総覧』

2021年3月 中央公論新社刊
50,600円(税込)
著者：堀 勇良(建築史家・理事)

活動報告

解体危機にある瑞穂橋梁見学

アメリカ海軍瑞穂補給基地に架かる瑞穂橋梁が、今年3月国に返還された。1934年(昭和9)製の鉄橋で、昔からのリベットと新たな溶接技術の両方を駆使して建造された、技術革新を物語る貴重な存在だ。

ヨコハマヘリテイジでは、5月に宮村会長、森まゆみ理事、増淵社員、中藤社員らが視察をおこなった。これを機に横浜市都市デザイン室では、現況把握調査を開始し、歴史、文化、技術史の観点から所見をまとめる予定。

港横浜の物流の発展に寄与したまさに、近代化遺産である瑞穂橋梁の保存に向けた方策を探っていきたい。(米山淳一)



宮村会長とみなさんで瑞穂橋梁見学

受付中!

■歴史を生かしたまちづくり相談室

老朽化、修理費、固定資産税、相続税など歴史的建造物に係るご相談を受付けています。ご相談は、ヨコハマヘリテイジ事務局まで。
TEL・FAX 045-651-1730 E-MAIL yh-info@yokohama-heritage.or.jp

■歴史を生かしたまちづくりファンド

歴史的資産の保存活動推進のためにファンドを創設し、みなさまに寄付をお願いしています。寄付は、税法上の優遇措置が受けられます。当公益社団への寄付は、特定公益増進法人として税法上の優遇措置が適用されます。詳しくは事務局でご説明させていただきます。

■『ヨコハマヘリテイジスタイル 2021年夏号』

■発行/2021年7月31日 公益社団法人横浜歴史資産調査会

■事務局/〒231-0012 横浜市中区相生町3-61 泰生ビル405

TEL・FAX/045-651-1730 E-MAIL/yh-info@yokohama-heritage.or.jp

ホームページ <http://www.yokohama-heritage.or.jp>